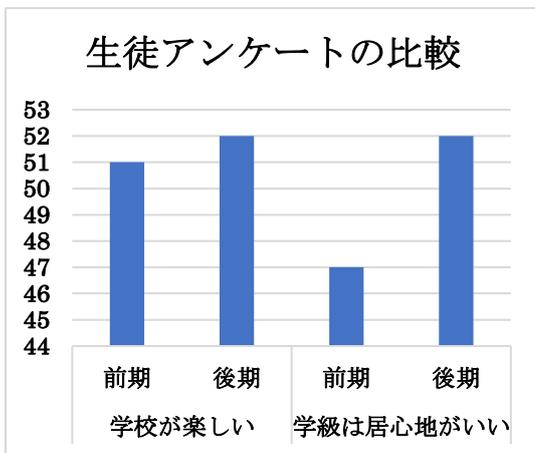


有終の美を飾ろう!

生徒指導主事 城戸 正剛



今月の生活目標は「有終の美を飾ろう」です。「有終の美を飾る」とは、どういう意味なのかご存知ですか?【事を全うし、締めくくりの局面でも見事な成果を挙げること】を指します。更に「有終」とは、【物事を最後までやり遂げること】を言い



ます。津幡中学校では、自他共栄～自分も相手も大切に～をテーマに、互いを認め合うことを大切に1年間生活してきました。生徒アンケートでは、「学校行くのが楽しい」「学級の居心地がいい」という質問に対する回答は、前期よりも数値が向上しました。私たちにとってもうれしいアンケート結果でした。定期的実践している人間関係作りプログラムや生徒のよさをこれからも褒め・認めながらより良い学校になるように努めていきます。

1月には、朝の登校(遅刻ゼロ!)と授業規律(終始の挨拶)の取り組みを行いました。その成果として、8時05分からの朝の学習や読書には全校静かに取り組むことができています。できることは、今後も継続することで更なる力に繋がると思います。「継続は力なり」という言葉にもあるように1日1日の積み重ねが実りある未来を作ります。生徒には、1日を大切に過ごすことに加え、さらによい学校生活を送るにあたり、「規範意識」がより身に付けてほしいと思います。「僕ら(私ら)くらい別に・・・」という安易な言動がないように、現在行っていることを最後までやり遂げることができるように生徒とともに頑張っていきたいと思います。



時間を有効に

研究主任 鶴山 達也

これまでに脳科学に基づいた話をたくさんしてきましたが、今月は『脳は主語を理解できない』という話をしました。人間は一日平均で60000回思考しているそうですが、その中で友達などに『〇〇さんってすごいね!』など前向きな発言に限らず、『〇〇さん、大嫌い!!』など否定的な発言をするとき、人の脳は主語にあたる『〇〇さん』を抜かしてとらえ、相手だけでなく自分に対しての言葉がけとして捉えてしまうそうです。



このように普段から前向きな言葉がけや思考をすることが習慣となっている人は、他者と良好な友好関係を築けるだけでなく、自らの考え方も前向きにできることです。

【言葉が変われば思考が変わる。思考が変われば、行動が変わる。行動が変われば、未来が変わる。】この言葉のように、『でも...』『だって...』『どうせ...』などの否定的な言葉ではなく、『もしかしたらできるかも!』など前向きな言葉がけをしたいものですね。